会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和５年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業  （２）教職員の資質能力向上の推進① 効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第2回授業改善サポーター養成講座開発委員会 |
| 開催日時 | 令和5年9月25日（木）15:00～17:00 |
| 場所 | AP品川アネックス |
| 出席者 | 事業責任者：成底　敏　　　　　　　　　　　　　　　　　計1名  委　　　員：岡村　慎一、猪俣　昇、合田　美子、半田　純子、  吉橋　大樹、遠藤　和彦、伊藤　宏一郎、栗林　直子  計8名  請負業者　：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　計1名  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計10名 |
| 議題等 | 〇アンケート結果に基づいた、「サポーター養成講座」「リフレクション講座」の内容（構成）の決定（猪俣）  ・指摘事項は以下の通りである。  【研修1の事前学習について】  ：（伊藤）『カリキュラム案\_20230925』における「授業改善サポーター養成講座」での事前学習で用いるシラバスには、自校の課題や学習背景を明記してもらう方が議論が深まりやすいのではないか？  →（合田）今後、検討をする。  【研修1,2,3の同期研修時間についての指摘】  ：（吉橋）3時間×3回の研修は短いという意見。  →（合田）3時間×3回にした理由は以下の2点である。  (1)全国の専門学校の教職員が日帰りでも参加できるから。  (2)事前/ 事後学習では扱えない範囲のみ同期学習で実施するから。  \*IDの知識がある教員と職員を研修対象とし、勤務年数は問わないが、学校から推薦された教職員であることを想定。  ：（岡村）東京への交通費を踏まえた上で参加する動機を作るために、  3時間という研修時間が適切かどうかを改めて検討しつつ、研修ボリュームやフォロー体制を丁寧に紹介する必要がある。  \*現時点では、「3日間の研修」という伝わり方になる。  【教職員コミュニティについての指摘】  ：（遠藤）Facebookグループにて「自校での分析結果のまとめ」を投稿するのは軽すぎるのではないか？  →（合田）Slackと比べて気軽に相談/ 投稿しやすいというメリットからあえてFacebookグループでの投稿を検討したが、全専研の意向に従いたい。  →（合田）Facebookグループでの投稿の是非に限らず、成果物（研修パッケージ）において、コミュニティの結成・活性化のための仕組みを組み込みたい。  ：（岡村）「熊大教授システム学分野拠点事業科目デザイン編モジュール」が掲載されたLMSを活用して教員コミュニティを形成するのはどうか？  →（合田）本研修専用のLMSを用意し、掲示板を通したコミュニティ形成を行うのは良いアイデアだと思った。  \*LMSを活用する場合、その旨も文科省に報告する必要がある。  【文科省へ納品する際に意識すべきことについて】  ：（飯塚）授業改善サポーターをテーマとした「研修パッケージ」を、文科省に納品することがゴールという認識を持つ。  \*Facebookグループでの投稿（コミュニケーション）内容も文科省への報告/ 公開資料となりうる前提を留意する。  ：（飯塚）“「全国専門学校教育研究会主催「インストラクショナルデザイン研修」を受けている人」”という文言はNG  →「インストラクショナルデザイン研修」の範囲を特定した上で、具体例として「全国専門学校教育研究会主催「インストラクショナルデザイン研修」を受けている人」と補足するのはOK  【本研修での到達目標について】  ：（岡村）「自校における授業コンサルテーションの普及を目指した施策を、個人レベル、組織レベルで提案することができる」とあるが、教職員に「普及促進」を課すと荷が重たい可能性があるのではないか？  →（岡村）「授業コンサルテーションが普及した結果、副次的な産物としてFacebookコミュニティ等が形成されて事例共有するようになった」、という流れの方が良いのでは？  【3年間における本研修のイメージについて】  ：（飯塚）今年度に本研修を完成させたうえで次年度以降にブラッシュアップする場合、全専研に加盟している専門学校は西高東低なので、今年度は関西で実施し、次年度は関東にて実施するという考え方も良いと思った。  →（猪俣）西高東低を活かして、研修場所を決めるのが良い（③にて詳述）。  【11月10日（金）の運営スタッフについて】  ：（飯塚）東京（or 福岡）にて研修を実施する場合、各委員は運営スタッフとして参加する必要がある（受付会計、司会進行、挨拶係等。最低3名）  ：（飯塚）本研修の参加人数を踏まえて、運営スタッフの配置を決める。  ②「サポーター養成講座」「リフレクション講座」の案内方法の確認  ・福岡を前提とするも、開催場所と同期研修の時間数は変更の余地あり  ・「研修1~3は全て参加する必要がある」といった注意書きを記入する  ・参加対象は「※全国専門学校教育研究会主催「インストラクショナルデザイン  研修」に参加したことがある教職員」を削除（する代わりに、メール文面にその旨を記載する）。  ・参加申し込みはグーグルフォームで集計する  ・早めに案内を出すことで、事前課題に取り組みやすくする必要がある（早めに開催場所を決める。）  ・参加定員は12名と記載しているが、それ以上の参加人数でも可能。  （3人1グループで活動を行う。）  ・問い合わせ窓口は猪俣先生  ・福岡開催の予定であるが、具体的な会場は未定  ・〆切は令和5年10月27日（金）  ・グーグルフォームの集計リンクは委員全員に共有しておく  ③「サポーター養成講座」「リフレクション講座」の実施日の決定  ・実施候補日は以下で確定する。  1. サポーター養成講座（研修1）：11月10日（金）13:00-16:00（仮）  2. リフレクション講座（研修2）：12月11日（月）13:00-16:00（仮）  3. リフレクション講座（研修3）： 1月15日（月）13:00-16:00（仮）  ・開催場所の候補は2案ある。  ： A案（第一希望）  →1. 2. を対面（福岡）で実施し、3. をオンラインで実施する  ：B案（第二希望）  →1. を対面（東京）で実施し、2. 3. をオンラインで実施する  ・A案実施のために、猪俣さんが麻生さんに根回しをする  \*麻生さんが10名以上集められることを期待  \*福岡開催の場合、（麻生さんの教室が好ましいが）別途会場を借りるのも可。  ④ 第3回WGの開催日時の決定  ・令和5年11月27日（月）15:00-17:00 対面予定  \*出欠状況により会場及び開催方法を再検討します。  参考：今後のWGの予定  ・第4回委員会：令和6年1月29日（月）15:00-17:00  ・第5回委員会：令和6年2月19日（月）15:00-17:00 |
| 配布資料 | ・カリキュラム案\_20230924  ・講座の案内文\_20230924  ・第２回委員会 アジェンダ  ・大規模アンケート調査まとめ\_20230919 |

以上